

腸管出血性大腸菌感染症の届出増加について

和歌山市内において、6 月に入り腸管出血性大腸菌（EHEC）感染症の届出が計 6 例と相次いで確認されており、行動歴や喫食歴の多い 20～30 歳代の若年層でした。

疫学調査の結果、症例間に接触者としての二次感染は見られず、一部で共通行動歴が認められたものの、ほとんどが「単発事例」でした。現在のところ感染源の特定には至っていません。

提供いただいた菌株を用いて、腸管出血性大腸菌の分離・同定、血清型、VT 型の同定を行うと同時に、反復配列多型解析（MLVA）法による分子疫学的解析を行っています。MLVA 法により、事例間の関連性や広域性の有無を確認し、発生動向の把握や食中毒事例の分析に役立てています。

「腹痛」や「水様性下痢」等の消化器症状を呈する患者が受診された際は、食肉等の喫食歴の有無にかかわらず、積極的な検便検査の実施をご検討ください。

【2026 年の届出症例】

	年代	性別	病原体	毒素	無症状	症状				
						腹痛	水様性下痢	血便	嘔吐	発熱
1	20代	女	O111	VT1		○	○	○	○	
2	30代	女	O153	VT1VT2	○※					
3	20代	男	O157	VT1VT2		○	○			
4	20代	女	O157	VT1VT2		○	○	○		
5	20代	女	O157	VT1VT2		○	○	○		○
6	20代	男	O157	VT1VT2		○	○			

※食品取扱者の定期検便にて探知

【O 血清型別報告割合（2026 年 7 月 7 日現在）】

	O157	O26	O103	O111	O146	O93	O153	計
2024年	7※ ¹		3※ ²			1		11
2025年	15※ ³	1	1		1			18
2026年	4			1			1	6

※1 家族内感染1グループ2例含む

※2 家族内感染1グループ3例含む

※3 家族内感染2グループ（3例、4例）含む

◆定期検便における陽性者が受診した場合の対応について

食品取扱者の定期検便など、民間の検査機関でのスクリーニング結果（陽性報告書）を持参して患者が来院された場合は、臨床症状の有無にかかわらず速やかに確定診断を行っていただき、直ちに和歌山市保健所へ「発生届」のご提出をお願いいたします。